

○日米欧における近年の動向

日本		米国		欧州	
評価	規制管理	評価	規制管理	評価	規制管理
<p>1993年【厚生省】 米国国家毒性プログラム (NTP) 試験から LOEL を 50 mg/kg 体重/日、TDI を 0.05 mg/kg 体重/日と設定。</p>	<p>1994年【厚生省】 ポリカーボネート製器具及び容器包装からの BPA の溶出試験規格を 2.5 µg/mL 以下と制限。</p>	<p>1993年【EPA】 米国国家毒性プログラム (NTP) 試験から LOEL を 50 mg/kg 体重/日、TDI を 0.05 mg/kg 体重/日と設定。</p>			
<p>2010年 【食品安全委員会】 中間とりまとめ。</p>	<p>2008年【厚生労働省】 食品健康影響評価の依頼 (任意諮問)。</p>	<p>2008年(～2014年)【FDA】 ・ 科学的研究のレビューを実施。 ・ NOAEL 5 mg/kg 体重/日について、現在のばく露レベルでは適正な安全性が確保されていると評価。 ・ 以降、2011年、2013年、2014年 (final) を公表するも安全性レベルは変更されず。</p>	<p>2012年【FDA】 乳幼児用容器におけるポリカーボネートの使用を取り下げ。</p>	<p>2006年【EFSA】 TDI を 0.05 mg/kg 体重/日に設定。</p>	
<p>2013年 【食品安全委員会】 食品安全確保総合事業を実施。</p>		<p>2010年(～2021年)【FDA】 ・ CLARITY-BPA プログラム (低用量影響の検証を含むラット2年間慢性毒性試験) を実施。 ・ 2018年：報告書を公表。 ・ 2021年：NTP Research Report を公表。 ※個々の試験結果の結論は記載されているものの、全試験を踏まえた総合評価に関する記載なし。</p>	<p>2013年【FDA】 乳児用調整粉乳容器におけるコーティング剤としての BPA エポキシ樹脂の使用を取り下げ。 ※乳幼児容器に係る規制は、いずれも業界が使用を放棄する旨を受けての対応であるため、BPA の安全性とは関係がない。</p>	<p>2015年【EFSA】 米国 CLARITY-BPA プログラムの結果が判明するまでの暫定的な TDI として 4 µg/kg 体重/日を設定。</p>	<p>2011年【EU】 プラスチック規則：BPA 規格 ・ 特定移行限度 (SML) : 0.6 mg/kg 以下 ・ 小児用ポリカーボネート製ボトルの使用禁止</p>
<p>2019年(～2020年) 【食品安全委員会】 調査事業及び研究事業を実施。</p>		<p>2022年【FDA】 環境団体等が食品容器への BPA の使用禁止・制限に関する請願書を FDA に提出。</p>	<p>2022年【FDA】 環境団体等が食品容器への BPA の使用禁止・制限に関する請願書を FDA に提出。</p>	<p>2021年【EFSA】 TDI を 0.04 ng/kg 体重/日とする再評価のドラフト案を公表。</p>	<p>2018年【EU】 プラスチック規則：BPA 規格の改訂 ・ SML: 0.05 mg/kg 以下 (設定根拠：EFSA 2015) ・ コーティング剤 (エポキシ樹脂等) についても同様の規制 (小児用は溶出不可)</p>
		<p>2022年～【FDA】 レビューリストに BPA を掲載。</p>		<p>2023年【EFSA】 ・ TDI を 0.2 ng/kg 体重/日と設定。 ・ EFSA/BfR、EFSA/EMA が Joint Report を発表。</p>	<p>2024年【EU】 EC 委員会で食品接触材料に含まれる BPA (類縁体を含む) を原則禁止とする案を採択。</p>
				<p>2023年【BfR】/2024年【COT】 ・ ドイツ BfR は TDI を 0.2 µg/kg 体重/日に設定。 ・ 英国 COT は BfR を支持。</p>	